経営比較分析表（平成28年度決算）

岡山県　真庭市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	44.58	44.03	4,212	

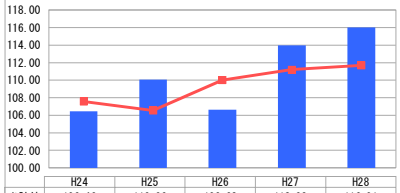
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
47,195	828.53	56.96
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
20,525	66.57	308.32

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【114.35】

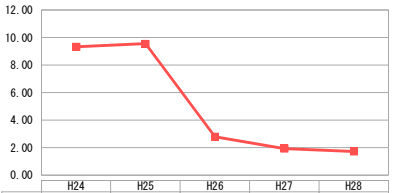


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	106.46	110.06	106.62	113.98	116.01
平均値	107.57	106.55	110.01	111.21	111.71

「経常損益」

②累積欠損金比率(%)

【0.79】

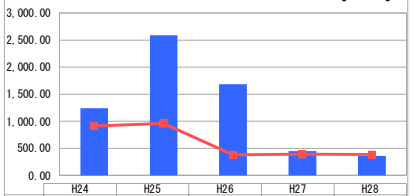


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	9.34	9.56	2.80	1.93	1.72

「累積欠損」

③流動比率(%)

【262.87】

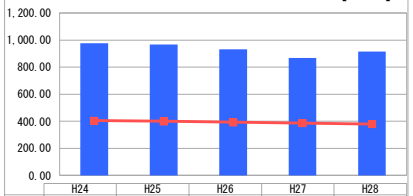


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	1,241.81	2,591.72	1,685.88	446.94	359.80
平均値	915.50	963.24	381.53	391.54	384.34

「支払能力」

④企業債残高対給水収益比率(%)

【270.87】

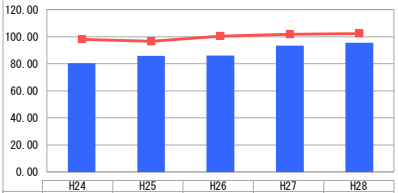


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	976.36	968.44	931.50	868.17	916.49
平均値	404.78	400.38	393.27	386.97	380.58

「債務残高」

⑤料金回収率(%)

【105.59】

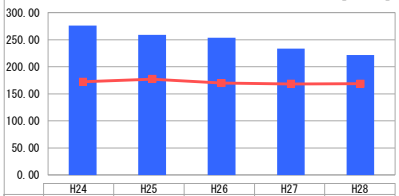


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	80.39	85.88	86.07	93.48	95.56
平均値	98.07	96.56	100.47	101.72	102.38

「料金水準の適切性」

⑥給水原価(円)

【163.27】

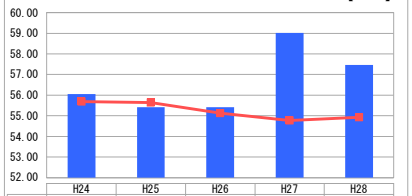


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	276.21	259.12	253.47	233.18	221.52
平均値	172.26	177.14	169.82	168.20	168.67

「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)

【59.94】

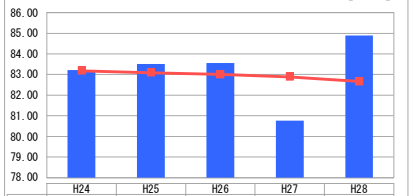


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	56.05	55.41	55.42	59.01	57.46
平均値	55.68	55.64	55.13	54.77	54.92

「施設の効率性」

⑧有収率(%)

【90.22】



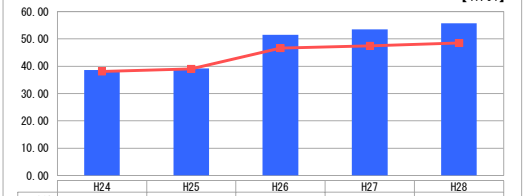
	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	83.22	83.51	83.55	80.77	84.89
平均値	83.18	83.09	83.00	82.89	82.66

「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【47.91】

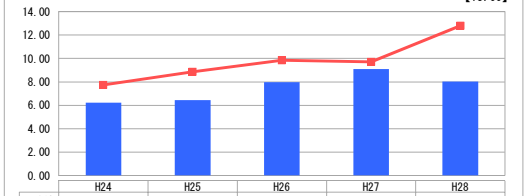


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	38.60	39.18	51.47	53.57	55.80
平均値	38.07	39.06	46.66	47.46	48.49

「施設全体の減価償却の状況」

②管路経年化率(%)

【15.00】

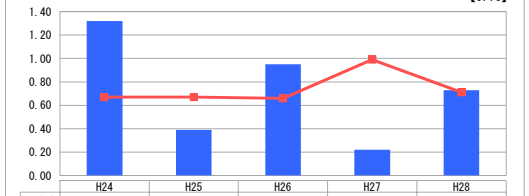


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	6.21	6.43	7.96	9.09	8.03
平均値	7.73	8.87	9.85	9.71	12.79

「管路の経年化の状況」

③管路更新率(%)

【0.76】



	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	1.32	0.39	0.95	0.22	0.73
平均値	0.67	0.67	0.66	0.99	0.71

「管路の更新投資の実施状況」

※　平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

真庭市の水道事業は、隣接した合併前の旧町村で配水管の口径や配水池の標高が同じような場合には、水の融通を行いながら、効率的な運営を行っている。しかし、一部では起伏の激しい簡水地区を統合し、ポンプで配水池へ送水しているため、莫大な整備費用や維持費用が必要となっている。

①経常収支比率
過去に100%を割ることがなく当年度では116.01%と向上しており、経営努力を行っている。

③流動比率
預金の目減りを抑制するため、起債額の抑制を図っており359.80%となっている。

④企業債残高対給水収益比率
地理的要因により整備費が高くなり、起債総額が高い状況である。前年度繰越事業の借入を行ったため916.49%となっている。

⑤料金回収率
H28年度に市内の料金統一を行ったため、95.56%となっている。

⑥給水原価
地理的要因により整備費が高くなり起債償還が多い状況であったため、221.52円となっている。

⑦施設利用率
企業誘致により配水量の増加により、H27年度から増加している。今後も施設の統廃合の検討を行っていく。

⑧有収率
老朽管改良や漏水修繕を行ったことで有収率が向上している。

2. 老朽化の状況について

投資効果が最大限発揮できるよう予算の範囲内で老朽管改良を優先順位により順次行っていくようにしている。

①有形固定資産減価償却率
みなし償却の廃止に伴い、減価償却費が増加したため55.80%となっている。

②管路経年化率、③管路更新率
様々な事業と連携し、事業費を軽減した事業を行いながら管路の更新を行っており、経年化率は8.03%で更新率は0.73%となっている。

全体総括

安心安全な水道水の供給のため、監視システムを導入し、水質事故や断水とならないよう事前に事故防止作業を行っているところであるが、人員削減となる中で水道技術者が少なくなり、技術の伝承が困難になっている。

また、収支状況を明確にしたうえで歳入歳出の適正化を図り、経営戦略を立て事業運営を行っていく必要がある。

経営比較分析表（平成28年度決算）

岡山県　真庭市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	該当数値なし	44.25	4,125	

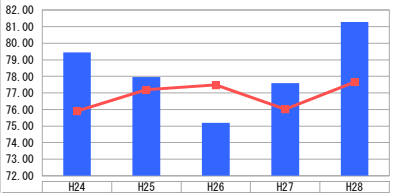
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
47,195	828.53	56.96
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
20,631	4.52	4,564.38

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①収益的収支比率(%)

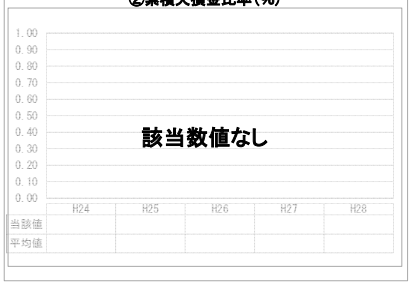
【76.78】



	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	79.45	77.95	75.19	77.60	81.29
平均値	75.91	77.19	77.48	76.02	77.66

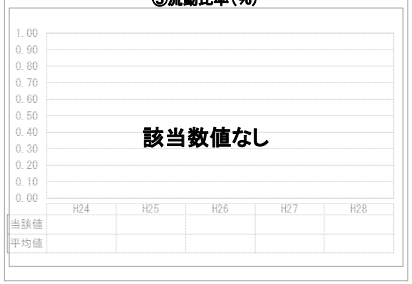
「単年度の収支」

②累積欠損金比率(%)



「累積欠損」

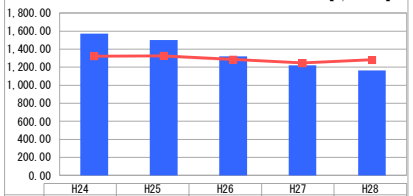
③流動比率(%)



「支払能力」

④企業債残高対給水収益比率(%)

【1,280.76】

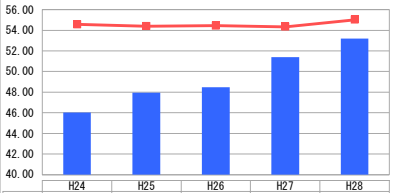


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	1,572.71	1,499.74	1,321.66	1,219.36	1,165.56
平均値	1,321.78	1,326.51	1,285.36	1,246.73	1,281.51

「債務残高」

⑤料金回収率(%)

【53.06】

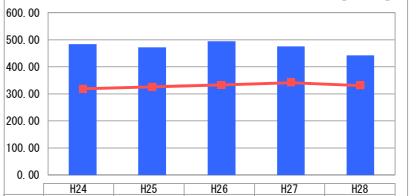


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	46.03	47.94	48.48	51.40	53.19
平均値	54.57	54.40	54.45	54.33	55.02

「料金水準の適切性」

⑥給水原価(円)

【314.83】

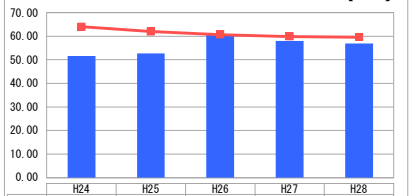


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	483.19	471.42	494.35	474.74	442.00
平均値	318.03	325.14	332.75	341.05	330.62

「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)

【56.28】

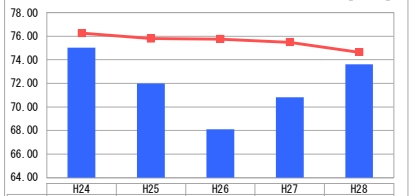


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	51.65	52.70	60.83	58.01	56.91
平均値	63.99	62.01	60.68	59.87	59.59

「施設の効率性」

⑧有収率(%)

【74.94】



	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	75.03	72.00	68.11	70.81	73.62
平均値	76.26	75.80	75.76	75.48	74.64

「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

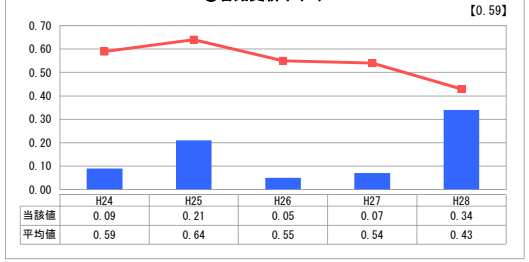
「施設全体の減価償却の状況」

②管路経年化率(%)

「管路の経年化の状況」

③管路更新率(%)

【0.59】



	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	0.09	0.21	0.05	0.07	0.34
平均値	0.59	0.64	0.55	0.54	0.43

「管路の更新投資の実施状況」

※　平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

真庭市は、合併前の旧町村ごとに効率のよい施設を整備していたが、合併により、東西に約30km、南北に約50kmと給水区域が拡大された。あわせて起伏が激しいうえに異なる水道施設を統合するには莫大な費用が必要となる。費用対効果を鑑み、水道施設の統合を検討、実施しているが、統合できない数多くの施設があるため、維持管理費用が多額となっている。

①収益的収支比率
起債償還利息の減により81.29%と少し上昇している。
④企業債残高対給水収益比率
地理的要因により整備費が高くなり起債総額が高い状況であるが、起債の繰上償還により残高が減り1,165.56%となっている。
⑤料金回収率
H28年度に市内の料金統一を行ったため、53.19%となっている。
⑥給水原価
地理的要因により整備費が高いので起債償還額が高く、給水原価が平均値と比べると高い状況であるが、借入金の抑制により減少傾向となっている。
⑦施設利用率
概ね横ばいの状況であるが、今後も施設の統廃合の検討を行っていく。
⑧有収率
老朽管改良や漏水修繕を行ったことで有収率が向上している。

2. 老朽化の状況について

投資効果が最大限発揮できるようH28年度より、老朽管改良を優先順位により順次行っている。
③管路更新率
計画的な老朽管改良を実施しており、更新率は0.34%と向上している。

全体総括

安心安全な水道水の供給のため、監視システムを導入し、水質事故や断水とならないよう事前に事故防止作業を行っているところであるが、人員削減となる中で水道技術者が少なくなり、技術の伝承が困難になっている。
また、今後、企業会計の適用を予定しており、適用後は収支状況を明確にしたうえで歳入歳出の適正化を図り、経営戦略を立て事業運営を行っていく必要がある。